

二宮町総合戦略評価について（意見）

「二宮町総合戦略」に掲げる4つの基本目標に基づく12本の施策について、各委員の経験や知見を活かし、町民としての視点、また第三者としての視点から、客観的及び具体的に、今後の「二宮町総合戦略」の推進に有効なものとなるよう、議論を進めてきました。

今回、施策に位置づけられたプロジェクトの内容や課題等を分かりやすくし、具体的な見直しが図りやすい評価方法となったことは、より目標達成を志向するものとして評価できることだと考えます。

しかし、事業の評価においては、町の取り組みや効果が町民に浸透していないとの意見が多くありました。適切な情報提供は、町民が町の現状や将来の課題を的確に把握するのを助けるだけでなく、町の取り組みや制度を正しく評価するために必要なことです。そのため、情報の受け手となる町民の立場に立った、分かりやすい言葉と情報を入手しやすいツールを熟慮のうえ選択し、タイムリーに発信していく情報発信能力を強化していく必要があると考えます。

また、今後の人口減少や少子高齢化の進展により、各団体や地域役員といった担い手の不足が想定されます。担い手の不足は町民活動や地域活動を衰退させるだけでなく、町が進める協働のまちづくりの一翼を失うこととなり、町事業そのものの衰退につながります。多様な主体との連携による効果的な事業を継続的に実施していくため、若い世代を取り込むアプローチを検討するなど、持続可能な組織やシステムの構築が求められます。

KPIについては、一部において施策の効果を検証するものとして、適切とは言い難いものがありました。PDCAサイクルにより効果的な事業とするためにも、成果を的確に反映できる指標となるよう見直しを図る必要があります。

なお、今回の評価で、町と地域や地域の人がうまく連携している施策に対し、評価が高かったことを踏まえ、今後も地域力を最大限に活用し、町一丸となってまちづくりに取り組む姿勢を明確に示すことが大切です。

評価の実施にあたっては、事業の内容や成果だけでなく、事業の実施に伴う費用面も考慮した評価とするため、次回から評価資料に決算額等の財政的資料も入れることを要望いたします。

最後に、この意見書が「二宮町人口ビジョン」の実現に寄与するとともに、町民の負託に応える町政の実現の一助となることを期待します。